

営農Information

インフォメーション

トマトの栽培

(果菜類ナス科 原産地:南米アンデス山地)



畑の準備

日当たりと排水の良い場所に、定植の1週間ほど前に堆肥や元肥を施用して、耕つんじねたて(やや高め)をして、40cm程度の間隔をあけて支柱を立てておきます。

1番花が咲いた状態の苗を植え付けましょう。過繁茂になりびろびろ、実がつかやすくなります。根鉢の表面が見える程度の浅植えにします。

元肥(1アール当たり)

- 堆肥: 200kg
- 苦土石灰: 10kg
- 大粒特8号: 8kg
- よつりん: 6kg

追肥(1アール当たり)

- 燐加安14号: 3kg/回
- 油かす: 5kg/回

【追肥1回目】1番果がピンポン玉大(こ肥大した頃)。

【2回目以降】20日おきくらい。

元肥はゆっくり長く効く緩効性肥料を使用。追肥は一度に多く与えず、草勢を見ながら調整します。

ホルモン処理(着果促進)

着果を安定させ草勢を落ち着かせるため、1〜3段花房のホルモン処理を行う。トマトトーンを低温時(20度以下)50倍、高温時100倍に希釈し、霧吹き等で各花房が3〜5開花した頃に、茎葉にかからないように、花が濡れる程度に噴霧する。桃太郎系の品種は、必ず行う。



誘引・摘心・摘果

最終収穫予定花房の上の葉2〜3葉を残して摘み取る。



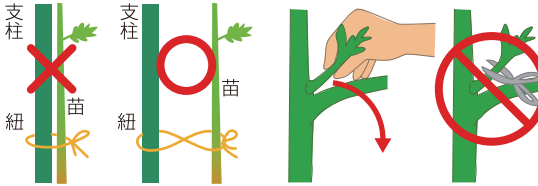
どんどんわき芽が出てくるので大きくなる前に摘みます。

わき芽は晴天の日に、各節とも早めに取り除き主枝を1本だけ伸ばす。芽かきが遅れると主枝の成長が悪くなる。

わき芽はつけ根から丁寧に指先でとる。はさみを使うとウイルスが伝染する恐れがある。樹勢が弱いときはわき芽を少し長くして(10〜15cm)からかき取る。

誘引はゆとりをもたせて8の字に結ぶ。

大きさをそろえるため3〜5個へ摘果する。摘果時期は果径が2cmくらいの時。



下記の薬剤でアブラムシを早期防除しましょう。

	薬剤名	希釈倍数(倍)または使用量	使用時期/総使用回数
アブラムシ類	ジェイエース粒剤(ミニトマトには不可)	1株当たり1〜2g(植穴処理)	定植時/1回
	アディオソ乳剤	2000〜3000倍	収穫前日まで/3回

※シルバーマルチは光の反射でアブラムシ類に忌避効果があります。

前作のある畑では、肥料成分が残っていますので元肥は少なめにしましょう。主枝は小指の太さくらいに! 親指くらいは肥料(チツン)が多すぎます。チツンが多いと尻腐れ症になります。尻腐れ症などが発生したら、カルシウム剤などを葉面散布しましょう。

水稻栽培 作土深15cm

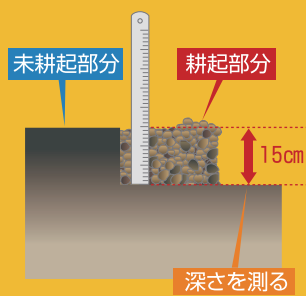
健康な根を作るため、丁寧な耕起作業で作土層を確保しましょう。

水稻は生育に必要な養水分の大部分を、作土層から得ています。

作土が浅いと根域が制限され根の機能の低下が早まり、生育後半に高温障害(白未熟粒)が発生しやすくなります。

耕起作業中の確認

圃場の一部を耕起し、未耕起の境目で高さを測定します。作土深が15cm確保出来るようロータリーの調整をしましょう。



ただし、一度に深耕すると不良な下層土が作土に混入し地力低下を招くことがあるので、急激な深耕は避け、毎年少しずつ掘り下げましょう。